

文化

沈黙に向き合う 沖繩戦聞き取り47年

石原 昌家

(79)

新平和祈念資料館展示変更問題は、9月30日の県議会での代表質問以後、10月6日から文教厚生委員会(喜納昌春委員長)が開かれ、7日に集中審議されることになった。その問題に對する市民の関心の高さは、10月6日の琉球新報朝刊の社会面トップ記事でも知ることが出来る。「資料館変更問題」/「記憶を抹消するな」/「県夜の関与指される」/「見え消しの全容判明」

琉球新報

「見え消し」の全容判明

41ページにわたり細目記す



県平和祈念資料館の展示変更案を手とめた「見え消し」と呼ばれる内部文書の全容が判明したことを報道する1999年10月7日付の琉球新報朝刊1面

「天皇メッセージ」も削除
県発言また覆る

弾/労組員が抗議集会/「歴史改ざん」に怒り」という見出しで、5日、沖縄平和運動センター主催の「沖繩戦の展示資料改ざんを許さない集い」が、琉球新報ホールで緊急に開催された。200人の労組員が参加した事でもわかる。

面には、目を疑うとしか言えないような文字がトップ記事になっている。9月20日、展示無断変更後の監修委員会が開催されたとき、6時間を要して、新聞社がこれまでの存在を暴いた資料提出を拒否し続けている。開催された議会でも野党議員が求める「見え消し」文書の提出を頑なに拒み、県議会

の空転を招いていた。その驚くべき記事のリードは「新県平和祈念資料館の展示内容変更案をまとめた見え消しと呼ばれる内部文書について、県文化国際局は公表の二枚以外に存在しないと否定してきたが、常設展示全般にわたる見え消しの全容を記した文書の存在が琉球新報社の調べで明らかにされた。常設展示全般の見え消し文書は『展示設計シ

下のように報じている。「これら変更作業は今年五月ごろから始まり、金城局長らを中心に何回か集まった。変更案を練り上げ、七月中旬までに見え消し文書としてまとめ上げている。文書で削除されているのは日本軍の沖縄人観が全面削除されているほか「八紘一宇の柱」の実物の展示が見送られている」

また、現資料館に展示されている日本軍によるスパイ取り締まり項目は全面的に削除され、『軍機を語るな』(引用者注:軍機とは軍事機密・秘密のこと)のポスターや憲兵のかばんと胸章の実物も展示から外されている

「このほか『アジア太平洋諸国の人々から見た十五年戦争』の項目は、中国での人体実験を行った731部隊などの写真を紹介する『カメラが捉えた日本の加害』の展示がすべて削除されている」と記されている。そして記事の本文では以下を記事の全体の内容として「資料館の全体的展示変更案を記した要旨」

平和祈念資料館問題 ⑫

展示変更案の全体判明

次々に「日本の加害」削除

ところが10月7日朝刊で琉球新報は、文教厚生委員会の会議前の議員へ資料配布するかのよう、「見え消し」の全容判明/41ページにわたり細目記す/天皇メッセージも削除/県発言また覆る(写真参照)という見出しの決定的スクープ記事を報じた。

「ナリオ」の展示細目を記した四十一枚の文書。変更案を見ると日本軍の残虐性を薄める形での変更のほか、昭和天皇が戦後の沖縄の長期占領を希望する口頭で連合軍に伝えた天皇メッセージも削除されている。さらにアジアでの日本の加害行為の展示削除も目立っている」と記されている。

そして記事の本文では以下を記事の全体の内容として「資料館の全体的展示変更案を記した要旨」

「これら変更作業は今年五月ごろから始まり、金城局長らを中心に何回か集まった。変更案を練り上げ、七月中旬までに見え消し文書としてまとめ上げている。文書で削除されているのは日本軍の沖縄人観が全面削除されているほか「八紘一宇の柱」の実物の展示が見送られている」

また、現資料館に展示されている日本軍によるスパイ取り締まり項目は全面的に削除され、『軍機を語るな』(引用者注:軍機とは軍事機密・秘密のこと)のポスターや憲兵のかばんと胸章の実物も展示から外されている

「このほか『アジア太平洋諸国の人々から見た十五年戦争』の項目は、中国での人体実験を行った731部隊などの写真を紹介する『カメラが捉えた日本の加害』の展示がすべて削除されている」と記されている。そして記事の本文では以下を記事の全体の内容として「資料館の全体的展示変更案を記した要旨」

「詳細は、石原昌家「全戦没者刻銘碑『平和の礎』」の本来の位置づけと変質化の動き」田中伸尚編「国立追悼施設を考える」樹花舎、2003年参照)。これら平和行政は、大田昌秀元知事の凄惨な戦場体験と沖繩戦研究、平和学者としての研究実績などを踏まえたものといえよう。

「平和観が違つ」新聞の記事内容で見られる限り、これまでの大田県政にかかわる稲嶺県政では、沖繩戦の住民被害の歴史と帝國日本の加害の歴史に向き合おうとしない行為が、文字として連なっている。複数の識者から戦争体験の「記憶の暗殺者」とまで非難されてきた稲嶺県政の歴史観、平和観というのは一体いかなるものであろうか。県政与党から「平和祈念資料館の在り方に対する稲嶺県政の姿勢を、堂々と県民に示すべきだ」とハッパをかけたからか、ついに前県政とは「平和観が違つ」ときっぱり県上層部が断言するに至った。(今回は、展示変更の本音を記している(今回は4月後半掲載予定)